

# 日本看護歴史学会 會報

日本看護  
歴史学会  
第47号  
2007年1月15日

2007年 賀正

年頭所感 看護史的な意義深い年から飛躍の年に

日本看護歴史学会理事長 川嶋みどり

2006年は、わが国の組織的な看護教育が始まって120年という記念すべき年でした。その有志共立東京病院看護婦教育所以来、脈々と伝統を守り続けて来られた慈恵医大医学部看護学科の芳賀和子会長によって開催された第20回学術集会、温故知新の学びを多くしたことは未だ記憶に新しいことです。また、秋には、本学会員でもあり看護史研究の草分けでもある坂本玄子さんの主宰する看護史研究会が、創設50年という地歩を固めた記念行事をされました。

一方、雑誌「看護教育」を媒体にして、看護歴史一創る、学ぶ、探る、伝える一と題して、会員有志らによるリレー連載もありました。その最終号によれば、何と、昨年は、わが国の国立大学病院ならびに国立病院・療養所に看護職の「看護部長」が誕生してから30年目という年でもあったのです。11月には、同誌増刊号「看護の歴史はおもしろい一語り継がれる人と時代」が刊行されました。看護歴史研究の方法をはじめ、激動する時代の変遷の中で活躍された多くの先達の思想と足どりを学び、看護教育に歴史教育を如何に位置づけるか、そして現実から未来を展望する論考や対談が盛りだくさんでした。ここでもまた、多くの会員諸姉、諸兄らの研究成果や個性を發揮した力作が展開されましたから、「看護歴史って面白い」というテーマそのものが、若い読者の共感を誘ったことでしょう。現実には、私の周辺の院生たちが数名、日本看

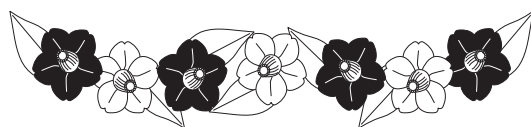


護歴史学会への入会を申し出てきました。このように、看護史的に考えて見ても実に意義のある2006年であったと思います。

こうして迎えた新しい年です。看護歴史学研究にとってかつてない飛躍の年であると、胸がときめくのは私一人ではありません。今年は、学会創立20年を記念して、昭和元年からの看護の道のりを、いくつかの領域に区分しながらビジュアルにまとめる企画を、担当者らが鋭意努力を重ねているところです。

枕言葉のように使われてきた少子高齢社会が現実のものとなり、看護職者への社会の期待が高まっている今日ですが、希望の持てる未来を展望するためにも、歴史を正しく評価する目が基本になると思います。会員の年齢の幅の広いことも本学会の特徴ですが、「看護史の発掘・研究」を共通の目標にしながら、中堅会員を要にして着実に歩いてまいりましょう。学会が大きくなっても初心を忘れず、会員数が多くなっても若い人たちを伸ばす学会でありたいと願います。歴史を発掘し研究する喜びを求めて、今年も楽しく学び交流しましょう。

会員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。



## 日本看護歴史学会第20回学術集会に参加 一企画委員・実行委員・演題発表者として一

東京慈恵会医科大学付属病院 看護部 大水 美名子

「歴史学会が慈恵で開かれる！」というニュースが飛び込んできたのは、確か平成16年の夏だったように記憶しています。歴史学会への十分な知識もないままに参加した準備委員会でしたが、絶対成功させたい！という皆の熱意が大きなエネルギーになり、順調な船出となりました。看護学科、4つの附属病院、看護専門学校、学生ボランティアの総勢85名のスタッフが一致団結して、記念すべき日本看護歴史学会「第20回学術集会」がスタートしました。

さて、この20周年という節目となる学術集会を看護教育発祥の地、慈恵で開催するという事は、大きな意義があると思われれます。改めて、理事の方々のお名前を拝見しますと、日本の看護界を導いてくださった方々が名を連ねていらっしゃいます。この機会に、歴史の探求をすると共に、看護の歴史を築かれた方々と広く交流を図る機会にもなります。私は企画者であると共に、看護を歴史的側面から考える好機にしたいと考えました。第1日目の講演・シンポジウムは、まさに期待どおりの成果が得られました。酒井シヅ先生の特別講演では、あらためて、慈恵・学祖である高木兼寛の、進取の精神に富んだ医学・看護への航跡を感じ取ることができました。また、シンポジウムでは、看護界とは異なる方々の奥深いお話を伺い、全く新鮮な感覚を持って歴史研究の面白さに触れたように思います。

2日目の研究発表では、私自身が口演するチャンスをいただきました。「慈恵における看護管理の変遷」を近年の変遷に焦点を当てて、検証する機会となりました。看護教育120年を経た今、慈恵医大看護部が、時代のニーズと共に変革を起こしてきた看護管理の軌跡を、記録を元に明らかにしていきました。その結果、様々な改革は、学祖・高木が理想とした「患者中心の医療」を「進取の精神」で実践してきた結果であることが明確になり、あらためて歴史的視座を持つことの重要性を再認識しました。社会の変化は加速度的であり、その中にある患者ニーズの変化に対応した看護の価値を創り出し、変革していく過程こそが看護の歴史となり、積み重なっていることを実感した次第です。会場に参加された方々も非常に熱心に、質疑応答も活発になされました。特に私のテーマは実践的であったためか、多くのご意見を頂き、ますますもって新しい看護の歴史を作るべくエネルギーを得ることができました。

さて私は企画・運営者として、また総合司会者として、まことにチームワーク良く運営された見事な連携プレーのお膳立てにのって、非常に精神的にリラックスした状態で2日間を過ごすことができました。新しい知見を得る喜びと共に貴重な経験を得られましたことに感謝致します。



慈恵大学高木理事（高木兼寛の曾孫）、芳賀学術集会長、川嶋理事長、酒井シヅ先生、慈恵大学栗原学長、草刈理事（左から）



特別講演：故吉村昭先生について語られる酒井シヅ先生



シンポジウム：小檜山ルイ先生、月澤美代子先生、藤村監事、平尾理事（左から）

## 日本看護歴史学会第20回学術集会収支決算報告書

開催日 2006年8月25日、26日

## 収入の部

科目	予算額(円)	決算額(円)	備考
大会参加費	800,000	1,426,000	会員事前振込み (7,000×116=812,000) 非会員事前振込み (8,000×35=280,000) 学生事前申し込み (2,000×3=6,000) 当日参加費 (8,000×40=320,000) 学生当日参加費 (2,000×4=8,000)
公的補助金	200,000	720,000	東京慈恵会医科大学、慈恵実業、 ホギメディカル、新和印刷
広告費	50,000	35,000	10,000円×3社、5,000×1社
その他	0	16,500	抄録11冊
		209,140	寄付金、販売売り上げ
計	1,050,000	2,406,640	

## 支出の部

科目	予算額(円)	決算額(円)	備考
会場設営費	10,000	0	
当日運営費	300,000	879,232	講師・協力者昼食代 (137人分)、協力員謝金、生花代他
会議費	200,000	195,315	企画・実行委員交通費、シンポジスト事前打ち合わせ交通費他
講師謝金	250,000	355,000	講師謝金、交通費他
通信費	90,000	143,209	郵送料他
印刷費	100,000	283,612	抄録集・封筒等印刷
事務費	100,000	308,642	ネームカードケース、用紙等消耗品、講演テープおこし料他
その他	0	141,630	懇親会費補填、雑費他
計	1,050,000	2,306,640	

収入2,406,640円－支出2,306,640円＝残金100,000円（日本看護歴史学会へ寄付）  
以上、ご報告いたします。

2006年11月22日 会計担当 東京慈恵会医科大学医学部 菊池麻由美  
慈恵第三看護専門学校 宅見 清子



## 日本看護歴史学会学術集会を終えて～第20回から第21回へ繋ぐ～

東京慈恵会医学部看護学科 芳賀 佐和子

2006年8月25日と26日の両日、日本看護歴史学会第20回学術集会を、看護教育発祥の地であります慈恵で担当させていただきました。多くの方々のご協力のもとに無事学術集会を終えることができましたことを心より感謝いたしております。

学会当日は230名余りの参加者を得て活発な討論が行われました。酒井シヅ先生の特別講演では、当初講演をお願いしておりました吉村昭先生のご逝去に伴い24日に開催された「お別れの会」の様子も伺いました。私は吉村先生の史料を駆使した著書『白い航跡』を思い出しておりました。

学会参加者のアンケートでは、学術集会全体については、概ね好評でした。また、シンポジウムは「刺激的であった」「圧倒された」「少しむずかしかった」などのご意見の他、「語り継ぎのセッションもほしい」「学会として立派になったが、参加し

ている実感が少なくなった」「交流セッションの時間をもっと長く」など貴重なご意見もよせられました。

今回の学術集会のテーマは、「歴史を拓く－看護教育120年を未来へ繋ぐ－」としました。私は歴史研究の大切なことは過去の事実の解明と、解明された事実の意味づけにあると考えます。ここで重要なことは、学問の自由を前提に史料を精選し、現在から過去を見つめ、将来を思索する私達の思考の確かさではないかと思えます。その意味で、本学会でも歴史研究にとって多くの蓄積ができたのではないかと感じております。

さらに、看護の未来を考える時、過去をみつめつつ、トランスナショナルな視野で歴史を学び、柔軟かつ創造的な史料の解釈が必要なのではないかと痛感しています。

2005年度決算報告

一般会計 期間 2005年4月1日～2006年3月31日

＜収入の部＞

項目	予算額	決算額	差額	備考
会費	1,020,000	1,384,000	364,000	会員166口、旧会費分31口 新入会員44口
寄付金・その他	40,000	161,632	121,632	学会誌・会報売上 93,440円 「戦後看護50年」印税 16,200円 第19回学術集會寄付 36,000円 個人寄付、その他 15,980円 利息 12円
前年度繰越	1,314,519	1,314,519	0	
合計	2,374,519	2,860,151	485,632	

＜支出の部＞

項目	予算額	決算額	差額	備考
<b>I. 会議費</b>	450,000	410,300	39,700	
1. 理事会	400,000	410,300		理事会2回(12名、14名)
2. 総会	50,000	0		交通費、学術集會弁当代
<b>II. 委員会活動費</b>	550,000	284,126	265,874	
1. 広報委員会	50,000	0		
2. 編集委員会	200,000	180,481		交通費 90,740円 郵送費 33,850円 会議費他 55,891円
3. 企画会報委員	50,000	0		
4. 特別委員会	200,000	70,720		会議費、文献目録データベース代
5. 研究活動推進	50,000	32,925		会議費、交通費、調査費
<b>III. 出版費</b>	360,000	364,875	-4,875	
1. 会報発行	60,000	49,875		第44号、第45号
2. 学会誌発行	300,000	315,000		第18号
<b>IV. 事務経費</b>	470,000	317,420	152,580	
1. 会議	50,000	5,720		交通費
2. 印刷	0	0		
3. 通信	120,000	79,090		学会誌・会報発送料金
4. 人件費	200,000	138,940		会員名簿管理他
5. 文具・その他	100,000	93,670		パソコンソフト、文具、宅配料金、ゴム印、振込み料金
<b>V. 諸会費</b>	80,000	80,000	0	日本看護系学会協議会
<b>VI. 予備費</b>	464,519	20,000	444,519	金子氏、中込氏花代
合計	2,374,519	1,476,721	897,798	

次年度繰越 2,860,151円 - 1,476,721円 : 1,383,430円

2005年度特別会計報告

1. テレホンカード売上収支 (総務)

	2005年度売上			2005年度末残数
	2004年末残数	売上数	売上金	
看護婦	5	0		5
保健婦	18	2	1,600	16
助産婦	115	1	800	114
合計	138	3	2,400	

各種5枚ずつ保存用とすること

項目	収入	支出	残額
前年度繰越			1,247,595
利子	53		1,247,648
テレホンカード売上	2,400		1,250,048
第19回学術集會より返金	200,000		1,050,048
第20回学術集會へ貸し出し		200,000	1,250,048

2005年度 残高 ￥1,250,048

2005年度会計監査結果報告書	
2005年度に関わる会計を監査したので報告します。	
1. 監査実施日	2006年8月11日
2. 2005年度決算監査結果	
2005年4月1日から2006年3月31日までの会計収支報告書について会計業務執行状況の監査を行いました。 会計担当理事平尾より関係書類及び預金通帳の現物の提示を受け、会計収支報告書に基づいて厳正な監査を行った結果、日本看護歴史学会の2005年度の収支を適正に表示していることを認めました。	
2006年8月11日	
日本看護歴史学会	会計監査 藤村龍文
	会計監査 山本捷子

「特別会員に関する規則」が改正されました!

特別会員に関する規則

- 第1条 看護歴史上に極めて有用な人材を得ることは日本看護歴史学会(以下「本会」という)のみに止まらず、広く看護界にも有益な影響を与えるとともに、その位置付けが看護界に多大な財産となることから、本会はこれらの人材を本会の特別会員として遇するものとする。
- 第2条 特別会員は、看護の歴史上、有用な時代の証言者、貴重な史料の発掘を行った者または極めて優れた業績を確立した者であって、本会の学術集會及び適宜開催される学習会等において協力を得られる者の中から選出する。
- 第3条 特別会員を推薦する者は、候補者の経歴および看護歴に関する業績、推薦理由を文書にて理事会に提出する。理事会において、特別

会員として推薦された者は、その年度に開催される本会の総会において会員の了承を得るものとする。

- 第4条 特別会員については、会費を徴収しないものとする。
- 第5条 特別会員は、終生その資格を有するものとする。但し、本人から辞任の申し出があった場合は、この限りではない。

附 則

- 第1項 本規則の改廃は総会の場で会員の了承を得るものとする。
- 第1項 本会則は1997年8月9日より施行する。
- 第1項 本規則は2006年8月26日より施行する。

### 第21回学術集会開催に向けて

京都府立医科大学医学部看護学科 学術集会長 福本 恵

新しい年を迎え、会員の皆様のますますのご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。本年は京都での開催の年、気を引き締めて準備を進めていきたいと思っています。

学術集会のテーマは、「歴史から学ぶ看護のこころ～仏教系の看護婦養成と近代的看護教育～」です。我が国の近代看護教育は明治期中期に東京と京都から始められました。これらには、キリスト教会や関係者が深く関わり、これら先達の尽力については、多くの文献で紹介されているところがあります。今回の学術集会を開催するにあたり、近代看護教育の発祥の地のひとつであることに着目し、京都看病婦学校や後続の仏教系看護婦養成のあたりに焦点をあてたいと考えています。同志社の『京都看病婦学校』における看護師養成と比較すると仏教系の看護婦養成については、今ひとつつまびらかではないという状況です。21回の学術集会は、看護の発展と可能性を探ることを念頭に、近代的看護教育の進展の中で、仏教と医療・福祉との関わりや仏教系の看護婦養成のありようを、その設立経緯や時代的背景をともし看護の意味づけや看護の心などについて討論する機会としたいと思います。ご講演はこのことについて、ご造詣の深い先生方をお願いしているところでございます。


なお、京都は故亀山美知子氏在住の地であり、今回8年ぶりに開催することになります。私達は亀山氏への追悼の意をもって取り組みたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。みなさまのご参加を心よりお待ち申し上げます。(詳細は、2月にお知らせします。研究発表及び交流セッションへのお申込みをお考えの方、今しばらくお待ちください！)

○開催日：2007年9月1日(土) 10時～  
9月2日(日) 12時30分(予定)


○会場：京都府立医科大学医学部  
看護学科学舎  
〒602-0857 京都市上京区清和院口寺町東  
入る中御霊町410

### <1988年京都での写真展の案内>

地下鉄御池駅ギャラリー6→7月の催し



近代看護婦発祥100年記念  
「看護婦100年のあゆみ写真展」



■期間/6月22日(木)→7月28日(日)  
■共催/日本看護歴史学会  
社団法人 京都府看護協会  
■後援/京都府  
京都市  
(財)京都市交通事業振興公社

〈お問い合わせ〉 社団法人 京都市交通事業振興公社  
〒602 京都市上京区烏丸通中出川上山西側  
中出川町下駄九内 TEL.075.431-4321

### <2000年10月26日京都新聞 「先人を訪ねて67」の紹介記事>



リンダ・リチャーズ  
1841-1930年。米ニューヨーク州生まれ。米国の初代看護婦長。英国に留学。ナイチンゲールに教養を受けた。米国内10以上の病院・看護学校を指導。看護を看護教育に引き継いだ。

「看護婦1000人送り出す」  
（京都市上京区烏丸通上馬場町）



看護婦1000人送り出す  
（京都市上京区烏丸通上馬場町）

「看護婦1000人送り出す」の碑。開設されたのは、明治11年（1878年）のことで、当時の看護婦は、米国の初代看護婦長、ナイチンゲールの教えを受けた。米国内10以上の病院・看護学校を指導。看護を看護教育に引き継いだ。

## 新入会員紹介(敬称略)

\* ( ) 内は会員番号

山田 富子 (06-001)	五十嵐弘美 (06-014)	阿部 紀子 (06-027)	栗原 鈴子 (06-040)
程塚 京子 (06-002)	矢崎智恵子 (06-015)	小松 和子 (06-028)	鈴木 友子 (06-041)
砂川 栄子 (06-003)	河田 好美 (06-016)	一戸 珠美 (06-029)	岳 可奈子 (06-042)
加古まゆみ (06-004)	石田 和代 (06-017)	佐藤 恵 (06-030)	山内かつ子 (06-043)
井上ふさえ (06-005)	及川 香織 (06-018)	坂下 早苗 (06-031)	上間ゆき子 (06-044)
友松 憲彦 (06-006)	角田真由美 (06-019)	矢崎志保子 (06-032)	山田たず子 (06-045)
増井 孝子 (06-007)	鈴木喜美子 (06-020)	大平 綾子 (06-033)	石田嵯知子 (06-046)
興梠 清美 (06-008)	内田 有紀 (06-021)	星 理津子 (06-034)	三浦 藍 (06-047)
浅賀 清美 (06-009)	有賀 庸代 (06-022)	真柄久美子 (06-035)	嘉手苺英子 (06-048)
河内山裕子 (06-010)	伊藤智恵子 (06-023)	福士 英子 (06-036)	川上 道子 (06-049)
木下 博子 (06-011)	小路美喜子 (06-024)	猪俣 英子 (06-037)	降旗 幹子 (06-050)
岩尾亜希子 (06-012)	大水美名子 (06-025)	吉原 章子 (06-038)	阿部オリエ (06-051)
前田 康代 (06-013)	森 三枝子 (06-026)	上田 博子 (06-039)	山勝 裕子 (06-052)

## 広報委員会の活動

新年明けましておめでとうございます。昨年は、わが国における近代看護教育が始まり120年を経ましたが、第20回学術集会をその発祥の地「慈恵」において盛大に行われましたこと会員の皆様もうれしくお思いのことと存じます。また、日本看護歴史学会が誕生して20年という節目の年でもありました。

平成18年度広報委員会活動としては、「日本看護歴史学会入会の御案内」パンフレットを1000部作成いたしました。桜色の和紙を基調にした、会報と同様のロゴによるA3版3つ折のかわいいパンフレットです。

本学会が20周年を迎えたことは皆様ご承知のとおりですが、現在、会員数は300余名と増員の傾向にあります。しかし、本学会としてはさらに会の発展を願って新会員のご入会を心待ちしているところです。

ここ数年の間は本学会の20周年を記念した行事が企画されております。その中でも、“2006年雑誌「看護教育」増刊号；Vol. 47 (11)；看護の歴史はおもしろ

い”は、本学会の理事長をはじめ理事の多くが執筆しておりますので、お読みいただくと歴史への関心がさらに高まることごさいます。このように広報委員としても、特に入会の御案内を啓蒙しているところですので、会員の皆様におかれましても歴史にご関心のある方をご存知でしたら是非ともご入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

\* 日本看護歴史学会に関する詳細についてはホームページに掲載されております。

(<http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>)

\* 「日本看護歴史学会入会の御案内」パンフレットは、PRを目的に各都道府県看護協会、看護系大学協議会会員校、等を通し配布させていただきました。次年度もさらにパンフレットを配布させていただきます予定です。

\* パンフレットご希望の方は、事務局、あるいは本学会理事が保管しておりますのでご一報ください。

(広報委員；氏家幸子 岡崎寿美子)

### 日本看護歴史学会 入会の御案内

事務局 〒228-0829 神奈川県相模原市北里2-1-1 北里大学看護学部 田中幸子  
Tel & Fax 042-778-9826 e-mail nhistory-gakkai@umin.ac.jp

## 年会費は6000円です

本学会は、皆さまからの会費収入で運営しております。ご協力をお願いいたします。なお、年会費を未納されますと会則6条の規程により、会員の資格を失うこととなりますので、ご留意ください。

学会事務局

加入者名 日本看護歴史学会  
口座番号 01010-1-52185

### 編集後記

アメリカ看護歴史学会会報を受け取ると、いつも本会報もこのような紙面にしたいと思います。紙面の充実には時間と労力が必要です。第47号は6面にしました。(す)

## 日本看護歴史学会会報 第47号

企画・編集 高橋みや子 (山形大学)  
大石杉乃 (東京慈恵会医科大学)

発行責任者 田中幸子 (北里大学看護学部)

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒228-0829

神奈川県相模原市北里2-1-1

北里大学看護学部 田中幸子

Tel&Fax 042-778-9826

e-mail [nhistory-gakkai@umin.ac.jp](mailto:nhistory-gakkai@umin.ac.jp)